



## 校外での学習で感じたこと

校長 かとう けんじ  
加藤 憲司

11月も終盤を迎え、冬の到来をいっそう間近に感じております。12月は学習発表会や6年生の日光自然教室が予定されています。体調には十分に注意をしていただきますようお願いいたします。

さて、11月は、4年生の社会科見学や1年生の生活科見学、2年生の町たんけん、3年生のサミット見学など、学校外で学習する機会が多くありました。学校で学んだことを実際に見たり、経験したりすることで学習が深まり、定着していきます。今回は、1年生の生活科見学と4年生の社会科見学の様子を紹介します。

### 1年 生活科見学について

11月15日(金)、足立区生物園と元漕江公園に行ってきました。生物園では、昆虫、魚類、両生類、は虫類、鳥類、哺乳類など約500種の生きものを飼育しており、子供たちはたんけんボードを手に、興味のある生き物を観察していました。また、元漕江公園では、秋探しをしました。どんぐりや落ち葉などを夢中になって探し、秋をたくさん発見することができました。

さて、生活科見学では、身近な自然や生き物を観察することに加え、安全に気を付けて歩行することや、生物園や駅などの施設、電車や公園など、公共の場所のルールやマナーを守ることも大切な学習です。生物園と元漕江公園は駅から約1.4kmありましたが、列を崩さないよう、安全に気を付けて歩行することが上手になってきています。入学から8カ月が過ぎ、日々成長していく姿を頼もしく感じています。



### Reduce(リデュース)の取組について

4年生の社会科では、ごみを安全かつ衛生的に処理していることや、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みができ、改善されてきたことにより、私たちの生活環境が維持・向上してきたことを学んでいます。

11月12日(火)に、学校で学んだことを実際に見学し、理解を深めるために社会科見学に行きました。まずは、環境局中防合同庁舎内で埋立処分場の概要説明を受けた後、バスで埋立処分場を見学します。職員の方からの説明で驚いたことは、「50年後、皆さんが60歳くらいになったら、23区で出される家庭ゴミは、埋立処分場が満杯となり、処分先がなくなる」という話です。

写真①にある緑色の部分は「新海面処分場」といい、写真②は、ごみを30mの高さに埋め立てた場所の上にある見晴らし台で撮った写真ですが、後ろに見える「新海面処分場」が50年後には満杯となるということです。もっと処分場を広げればいいと思いますが、東京湾に入る船の航路を確保するため、拡張は難しいとのこと。概要説明の中で、職員の方からは、3R「Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)」の中でも、「Reduce(リデュース)」、ごみそのものを減らすことが大切であること教えてもらいました。

子供たちには、この学習を通して、自分の身近な生活環境を守る意識を高めるとともに、例えばレジ袋を使わない、過剰包装している商品避ける、ペットボトル飲料を買わずに、水筒を使うなど、自分たちができることを考え、実践につなげることを期待しています。

